

第 17 回企画運営委員会（13.1.10）のまとめ

平成 24 年度江南区福祉の学び舎事業の第 17 回（通算）企画運営委員会は 1 月 10 日（木）に亀田健康センターで開催されました。

今回は、現在進めている 2 つの実験プロジェクトの進捗状況の報告と、2 月 5 日（火）に開催する「第 7 回福祉のネットワークづくり交流会」の内容案検討、平成 25 年度の事業についての意見交換などを行いました。話し合いの内容は以下のとおりです。配付資料とあわせてご覧ください。

平成 24 年度事業の進捗状況

実験プロジェクトして行っている「江南区ささえ合いマップづくり」（浦町自治会で実施）と「学生ボランティア・マッチングプロジェクト」の開催概要と実績が、資料をもとに報告されました。「ささえ合いマップづくり」については、作成したマップに個人情報が多く含まれているため公表はできませんが、実施した地元の方の感想やその意義についても説明されました。報告を受け、質疑応答および意見交換を行いました。

【学生ボランティア・マッチングプロジェクトについて】

- 障害者に対するボランティア希望はないか？
 - ・県障害者交流センターからはある。ただし、受入れが難しいとの声もあった。
- 学部の違いで、希望の違いや呼びかけ方が変わるのではないか？
 - ・今回は各大学のボランティアサークル中心に呼びかけています。ここから大学内の他のサークルへの呼びかけも可能と聞いた。
- 人足（作業）だけのボランティアは人気がないというが、やってみないとわからないこともあるのでは？
 - ・作業は単純でも、きちんと説明があればよいとのこと。
 - ・やりがいを感じられるかどうか重要。
 - ・企画から参加したい、というニーズが高い。
 - ・情報の出し方や受入側の対応が重要である。大学側の窓口の対応も学校によって違うことがわかった。
- 老人ホームなど高齢者対象は受入側の対応が大切。受け入れ側に余裕がない時もある。

- ・受入側がどのような意識を持ったり、対応すべきかも今回のプロジェクトで学べる。
- ・ボランティアに対応する担当者受入側がいるといい。

■ボランティアの実施や今回のプロジェクトを通じて、福祉に対する意識を高めていただくねらいもある。学生さんたちに、いろんなボランティアがあることもわかってもらえるといい。

■まずは、江南区内に学生さんたちに来てもらうことが大切であり、今後、細かい部分を詰めていながら「しくみ」の検討を続けます。

第7回福祉のネットワークづくり交流会について

2月5日（火）に実施する「第7回福祉のネットワークづくり交流会」の企画案について説明され、内容の検討を行いました。

○茶話会の進め方は？

- ・パネリストを囲む形なので、グループ数はパネリストの人数に合わせます。

○ささえ合いマップづくりのパネリストが決まっていないが…。

- ・（何人が候補を挙げていただいたので）いただいた意見をもとに人選します。パネリストへの質問項目も今日のご意見を参考にします。
- ・斉藤会長さんが感じた良かったことを多くの地域の方に伝えたい（自治会、いきいきサロンなどあちこちに呼びたい）。

【ささえ合いマップづくりについて】

○いきいきサロン内でも地図に落とすことはやっており、そのつながりはとても有効である。ゆるやかな見守りとなっている。

○民生委員さんと自治会長さんが繋がっていない地区もある。

- ・本来は繋がっていたほうがいい。
- ・相談するときもどちらに頼むかは、それぞれの地区で異なる（一生懸命やっている人に頼みがちである）。
- ・最近自治会に知られなくなると包括さんにつなげるケースもある。
- ・近所づきあいをしたくない人もいるが、やっぱり何かあったら近所が大切。
→それを感じてもらい、意識をしてもらわないといけない。マップづくりはそのために行う（厳密な正確さは求めなくていいが、情報共有はできる）。

平成25年度事業について

平成25年度の「福祉の学び舎事業」についてはまだ実施の方向性や企画が決まっていますが、現段階で委員のみなさんよりご意見をうかがいました。

○困っている人を包括支援センターに“つなげる”人を育てられないか？

- ・現状は民生委員さんがその役目であるが…。
- ・緊急時は救急車を呼んでしまう。
- ・包括支援センターにつなげることで、助かった人もいる。
- ・いきいきサロンを通じて包括支援センターが認知されているところもあり。
- ・介護認定の人はケアマネと繋がっているけど…、繋がらない人もいる。
- ・マップづくりの中でPRできる可能性があるのではないか。

○曾野木地区でマップづくりをしてみてはどうか？

- ・マップづくりは包括支援センターと社協にとってすごく大切と思う。
- ・マップづくりはあくまでもきっかけづくりであり、見えてきた課題には個別に対応する。
- ・マップづくりは実施の呼びかけや素地をどう作るかなど導入時がとても重要であり、実施のハードルは高い。
 - 普及研究会を立ち上げてもいいかもしれない。素地の作り方や仕掛け方を考えたり、マップづくり後の取り組み例を提示することも考えられる。

以上です。今後ともご協力をどうぞよろしくお願いいたします。